

# 道内のマラソン大会に多数参加！ 中安立洋さんファミリー



左から  
りゅうと 琉翔さん (長男・中3)  
 立洋さん (父)  
 友巳さん (母)  
ひかる 晃琉さん (次男・小5)

9/8に札幌市真駒内で行われたコープさっぽろ・S&B杯「ちびっ子健康マラソン大会」時に撮影。次男・ひかる晃琉さんが3kmを完走した後のご褒美には、さっぽろオータムフェストでラーメンを食べたそうです。

今年は4月に伊達市で行われた「春一番伊達ハーフマラソン」へ家族4人そろって出場したのを皮切りに、5月には名寄市の「ハーフマラソン大会」、7月には北竜町の「北商ロードレース大会」、8月には当別町の「スウェーデンマラソン」にも参加しました(参加対象などが大会ごとで違うため、すべてが4人での出場ではありません)。今回は、中安さんファミリーのマラソンの楽しみ方についてお聞きしました。

## 初参加は約7年前に親子で

**長男**りゅうと・琉翔さんが小学2年の時、父・立洋さんと一緒に「石狩サーモンマラソン大会(親子の部)」へ出場しました。ほとんど練習なしで参加し、立洋さんがリードする形でゴール。翌年も同じ大会に参加すると、今度は父・立洋さんがバテてしまい、琉翔さんが立洋さんの背中を押し、手をひっぱりながらゴールしたそうです。立洋さんは「子どもの成長と自分の衰えを感じた瞬間でした。子どもにはまだ負けられないので、休みの日に練習をするようになりました。子どもたちは日々成長していますが、大人は現状維持が目標です」とお話ししてくれました。その後、次男・ひかる晃琉さんは兄の影響で、母・友巳さんは子どもたちの練習相手として走り始めました。

## 大会に参加する楽しみ

「参加けが決まると大会へ向けて練習します。走る距離も場所もさまざまですが、子どもは7km以上は走らせすぎないように気をつけています。大会を選ぶ基準は家族で参加できて、参加賞が良く、地元の食べ物に魅力があること」と立洋さん。「大会に出るとご褒美みたいに参加賞をたくさんもらえるし、その土地のおいしいものが食べられる。一番すごかったのは8月に参加した最東端ねむろシーサイドマラソン大会の完走賞で、花咲ガニをもらった」と目を輝かせるのは次男・晃琉さん。長男・琉翔さんは「室蘭の大会ゴール後に食べたカレーラーメンが本当においしかった。あまりにもおいしかったので、後日、他のお店で食べてみると辛すぎて驚いたこともあっ

た」とのエピソードも教えてくれました。母・友巳さんは「観光目的も兼ねてマラソンを楽しんでいますが、走った後はみんな本当に良く食べます。去年は、大会とは関係なく函館市や富良野市などに車で行って、マラソンしながら観光地を周遊しました」とお話ししてくれました。過去の功績では、晃琉さんは小学3年の時に立洋さんと北竜町の「北商ロードレース大会(親子ペア・3km)」で、琉翔さんは中学2年の時に室蘭市の「白鳥大橋ハーフマラソン(7km/中学生以上)」に出場し、それぞれ準優勝したことも。長男・琉翔さんは西当別中の陸上部で中距離種目を頑張ったので、高校進学後も陸上を続けたい、次男・晃琉さんも中学進学後は陸上部に入りたいと抱負も聞かせてくれました。

9月下旬の「オホーツク網走マラソン」では、立洋さんと友巳さんは初めてフルマラソンに挑戦します。琉翔さんと晃琉さんはファンラン3kmに参加予定で、大会後には皆さんのお楽しみ「おいしいご褒美」を満喫されることでしょう。

(9月5日取材)